



台風の発生や進行の仕方に、これまでと異なる様相があるようです。ある気象予報士の話では、九州はもう亜熱帯化しているとのことでした。今月から来月にかけて、まだ発生すると思われます。昨年に続いて米の作況が心配されています。

地域の学校から世の中を観る

展示「越谷から見た近代教育150年」を終えて

7月末から8月末まで市役所で行われた展示「越谷から見た近代教育150年」(前期・後期)にはたくさんの方々にご来場いただきました。厚く御礼申し上げます。この展示パネルと配布資料は越谷市HPでご覧いただけます。この企画のための調査や取材を通して、改めて次のことを認識致しました。

近代教育の大きな節目に際して、地域の人々がその困難に取り組んだ姿

- ◆多忙な生業の間にも世の中の動きに関心を持ちつつ教育の充実に携わった姿
- ◆疫病、自然災害、戦争などでの犠牲や混乱と、その中で営まれた学校や家庭での生活
- ◆それぞれの時代を映した児童・生徒の表情と心情

これらのことは皆様からのアンケート回答にもありました。後期展示アンケートからご紹介します。(前期展示のアンケートの内容は「古民家だより」No.69をご参照ください。)

史料の持つ力について

- ★昭和25年生まれの私は、戦前の学校の具体的な話は親から聞くのみであった。展示を見て、紛れもなくそこに生活があり、戦前・戦後を生き抜いてきた人生を想うと、熱い想いがします。
- ★平和に暮らすことのできるありがたみを感じました。成績表や日記、宿直日誌など生の史料の展示がよい。
- ★第二次大戦中から戦後の社会情勢や教育現場の姿が実にリアルに展示されている。
- ★当時の雰囲気や伝わる写真が多く、特に当時の学校の面接問答集や教科書の写真が面白くて見入ってしまいました。越谷に住み始めて2年程度ですが、とても面白かったです。
- ★空襲警報の回数に驚き、荻島に飛行場があったことも初めて知りました。
- ★集合写真を時代ごとに並べ、衣類や履物の変遷を解説してあり、意外にも戦後に下駄を履いている児童が多いことに驚いた。
- ★地域の特色は教育にも表れていたと思います。
- ★これだけの史料をよく……。 「草笛」の紹介や野口富士男の日記も興味深いものでした。出来事と越谷や社会の様子を比較して見られて勉強になりました。
- ★(戦前戦中のことは)正直、昔の話と感じていたが、越谷市の実際の歴史の貴重な史料を見て実感することができた。
- ★日誌、押印(校印)のひとつひとつが原資料。孫の進学の苦心を見ながら、教育委員会の重さを思います。

展示テーマに関わる感想

- ★教育が人を作り、国を作る。どのような国を作ってきたか、垣間見た思いです。
- ★日本の教育について、地元越谷市の状況から見ることで面白かったです。



- ★「君たちはどう生きるか」ですね。常に問いながら生きるの大事ですね、世代を超えて。
- ★戦中から戦後、私たちが当たり前だと思っていることも、このように少しずつ進んできたと思います。

人生

- ★自分がどの時代を生きてきたのか、改めて確認したように思います。(80歳前後の方)
- ★自分に引き寄せて考える時間をいただいたように思う。(40歳前後の方)
- ★母世代の子供時代や青春がどういう生活であったのか知り、その人生を想った。(70歳前後の方)
- ★夏休みに息子(中1)が「君たちはどう生きるか」を読んでいたで、次は連れてきて一緒に見せたいと思います。(50歳前後の方)

小中学生の感想

- ★今の教科書は色のついた絵だけど、昔の教科書だとわかりにくかった。わたしは紙パックの牛にゆうをのんでいるけど、昔は今とちがうからふしぎでした。(小学生)
- ★自分の小学校の名前があって、前とつながっていてよかった。(小学生)
- ★戦時中の出来事などをくわしく知ることができました。自分たちの住んでいる市の歴史に興味を持ってました。(中学生)

様々な視点から・ご要望

- ★その時々教育に携わる方々が苦労しながら子供たちのために努力されていることが伺えました。
- ★娘が教員志望なので、親子そろって興味深く見る事ができました。
- ★越谷市を深く知る機会になりました。愛着が増します。
- ★美術館、文学館、博物館など計画的に作って行って欲しいです。
- ★実物の展示があると良い。
- ★図録や冊子にして刊行されることを希望します。

複数の方々からご要望がありました。少しずつでも実現の方向に行けるよう、努力いたします。

教科書の歴史は京都・奈良や江戸中心に記述されることが多いのですが、私たちが暮らしているこの地から社会を観る大切さ、その意義が寄せられた感想からも窺えます。そしてそのことによって現代や将来のことにも想いが及びますね。

人々の祈りと匠の技

だし山車と人形



しょうき「鍾馗」像の衣装着付け

今年は5年振りに久伊豆神社祭礼・越ヶ谷秋まつりが催されます。(10月12日(土)～13日(日)) これに先立って、先月には山車とその上に載せる人形についてさいたま民俗文化研究所等の専門家による調査が行われ、次いで市役所エントランス棟に展示が行われました。関係者の皆様には大変なご協力をいただきました。有難うございました。



山車の組み立て作業

わら藁の活用

レイクタウン周辺で行われる10月5日(土)～6日(日)のエコ・ウィーク、旧東方村中村家住宅では“藁”に関する簡易な展示を行います。(展示は11月4日まで。展示期間中は入館無料。水曜日は休館。)

現在では稲わらを見かけることがとても少なくなってきましたが、かつて藁はその全てが様々なものに活用されました。その一端をご紹介します。